

【杉原千畝研究会会員日より】

「国際ホロコースト記念日」に思うこと

(菊地マウゴジャタ)

1945年1月27日にアウシュヴィツ・ビルケナウ強制収容所が解放されました。その日を記念して「国際ホロコースト記念日」、「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」が設定され、毎年1月27日には世界中で祈りが捧げられます。

ホロコーストという単語は「全てを焼く」の意味を持っています。ギリシア語の「ὅλος ホロス ⇒ 全て、全部」と「καυστός カウストス ⇒ 焼く」に由来しています。

「ホロコースト」とは、第二次世界大戦中にナチス・ドイツによる、主にユダヤ人に対する大量虐殺を表現するときに使用されます。

また、大量虐殺はジェノサイドとも呼ばれています。ギリシア語の「γένος ゲノス ⇒ 種族」とラテン語の caedes カエデス《教会ラテン語：ツェデス》殺戮」の合成語です。

戦争中は様々な民族が殺されました。ユダヤ人だけでなくポーランド人に対するホロコーストもありました。これを私の祖国ポーランドでは「ポーランド人の殺戮」と表現します。

一般的にあまり知られていませんが、ポーランドの人たちも子供や女性も含め、想像を絶するいろいろな残酷な方法で、人々が殺されました。

私は18年以上、ポーランド国内や様々な国の人々に案内兼通訳をしてきましたが、アウシュヴィツ・ビルケナウや他の強制収容所はやっぱり悲惨なところだと心が痛みます。

アウシュヴィツ・ビルケナウは、今は博物館になっていますが、人々を案内するたび、私はある部屋、ある場所に行くと、当時の残虐性を想起して声が出にくくなるのです。



「働けば自由になれる」の門がある
アウシュビッツ強制収容所



アウシュビッツ強制収容所内にある「死の壁」
この前で収容者が射殺された

戦争（紛争）や内紛によって、いつの時代も各地で大虐殺が発生します。例えばコンゴ人の大虐殺、カンボジア大虐殺、ルアンダ大虐殺、ロシアにおけるボグロム、現在のシリアやガザ、古くはアメリカ大陸の先住民であるインディアンへの虐殺、等々です。

歴史を振り返ってみると、大量虐殺は一つの民族、一時期に限ったことではありません。

戦争や紛争は、尊い命と大切な財産を失うばかりで、勝者はいないのです。

今年、「国際ホロコースト記念日」80年を迎えました。この日、過去に虐殺された全ての民族のために祈りを捧げながら、歴史の記憶を今後の教訓にすることが私たちの責務であると、平和への思いを深くしました。（写真も筆者）